



ほんちゆうのうれしん

編集・発行  
 児玉源太郎顕彰会  
 〒745-0874  
 山口県周南市公園区5854-41  
 周南文化協会 内  
 TEL. 0834-22-8190

印刷 (株) 精文社  
 山口県周南市若宮町1-55  
 TEL. 0834-21-1611

# 児玉源太郎顕彰会 6年の足跡 次のステージへ

徳山藩士の子として幕末に生まれ、明治の近代化推進に貢献した児玉源太郎。その偉業を称え、志を次世代に伝えよう、と顕彰会を設立して早や6年が過ぎようとしています。源太郎の命日7月24日を「藤園忌」と定めて始めた茶会や俳句募集などの行事、明治150年記念行事、源太郎の生涯を描いたDVD「児玉源太郎・未来を築く」(全3巻)製作など毎年のように新しい事業を手掛け、大きな成果を上げてきました。

令和4年は徳山開港百年、児玉神社遷座百年の節目の年にあたります。徳山下松港開港100周年記念行事が開幕、児玉神社遷座百年記念行事の核となる社殿、境内

の改修も着手されました。この節目に顕彰会6年の足跡を振り返り、次のステージへ向けた展望を考えてみます。

## 〔平成28年(2016年)〕

設立総会を6月9日、周南市文化会館で開催。源太郎没後110年にして念願の組織が動き始めました。会長は小川亮二元徳山市長、副会長5人、理事13人、監事2人、幹事8人、事務局長1人。会報「藤園」創刊号(以降、年1回発行。6号を重ねる)を10月1日発行、これに合わせて本格的な活動をスタートさせるための設立記念式典を10月8日、周南市の遠石会館で開催しました。出席者152人。

設立記念講演会を12月10日、周南市文化会館で。児玉源太郎研究の第一人者、北九州市立大学の小林道彦教授(日本政治外交史)が「児玉源太郎にみる日本近代史の転換点」と題して。

## 〔平成29年(2017年)〕

活動を伝えるニュースレター「本丁通信」創刊号(以降、春と秋の年2回発行。この号で10号)を3月25日に発行。題名は源太郎の生家があった地名「本丁」に拠ります。

児玉源太郎の命日7月24日を雅号にちなんで「藤園忌」と定めて児玉神社(黒神直大宮司)で命日祭、児玉家の菩提寺・興元寺(金



第1回「藤園忌」命日祭(児玉神社)



第1回「藤園忌」墓前供養(興元寺)

子清学住職)で墓前供養を、周南文化協会の協力で記念の茶会と俳句募集を始めました。以来、夏の恒例行事として定着しました。

## 〔平成30年(2018年)〕

慶応から明治へ元号を改めて150年。児玉源太郎顕彰会が中心となって「明治維新百五十年回想と顕彰」周南実行委員会(小川亮会長)を発足。4月22日、徳山藩の初代藩主就隆公と幕末の九代藩主元蕃公を祭神とした祐綏神社(黒神直大宮司)で奉祝祭(200人参加)、9月23日に山口県周防部の史跡探訪バス(36人参加)、12月19日に明治の酒と食を再現した「明治維新百五十年の宴」(11

0人出席)を遠石会館で実施しました。

周南市岐山通三丁目の児玉源太郎生家跡「生誕の地」にこの年4月17日、市民有志の慈善団体「みどりの会」(友広敏代表)の協力で掲示板を設置、「藤園忌俳句」の特選3句や「本丁通信」を披露しています。



明治維新150年の奉祝祭(祐桜神社)

〔平成31年・令和元年

(2019年)〕

1月16日に小川亮会長逝去。5月に元号が令和へ。5月25日に赤尾嘉文副会長(山口放送相談役)逝去。同日の総会で山下武右理事(山下内科医院院長)が二代目会



初めての台湾の旅で児玉源太郎と後藤新平の立像に对面(国立台湾博物館)

長に満場一致で選出されました。2月15日から3日間「児玉源太郎の足跡をたどる台湾の旅」(17人参加)を初めて実施。「明治維新百五十年回想と顕彰」実行委員会の活動と未来へのメッセージを伝える記念誌「未来の君たちへ」(A5判・114頁)を3月25日発行。源太郎の生涯を描くDVD「児玉源太郎・未来を築く」(全3巻)の製作に着手。後藤新平のふるさと、岩手県奥州市の後藤新平顕彰会(山口了紀会長)との交流を始めました。台湾の近代化の基盤は四代総督児玉源太郎と民政長官後藤新平のコンビで実現しました。周南市児玉町の児玉神社境内に

顕彰会の活動などを知らせる掲示板を周南西ロータリークラブ(吉原雅会長)の協力で5月23日に設置。同市ノ井手の興元寺墓地の一角に11月30日、案内板「児玉家墓所・児玉源太郎遺髪塔」を同寺の協力で据え付けました。

〔令和2年(2020年)〕

DVD「児玉源太郎・未来を築く」(全3巻)完成。児玉源太郎顕彰会企画、山口放送制作、トヨタカローラ山口特別協賛。「児玉源太郎を知っていますか」「児玉源太郎が生きた明治とは」「児玉源太郎が目指したものは」の3巻で200セット製作、製作費330万円。10月8日に周南市の小・中学

校、高校、大学、図書館、市民センター、10月から11月にかけて国会図書館、47都道府県の中央図書館などに寄贈しました。

台湾では後藤新平の下で新渡戸稲造も活躍しています。札幌農学校二期生の新渡戸はアメリカ留学後、札幌農学校でも教鞭をとり、貧しくて義務教育を受けられない青少年のために遠友夜学校を創設、尽力しました。その夜学校記念館建設を目指して活動している「一般社団法人新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」(松井博和理事長)とも交流、その活動を支援しています。

〔令和3年(2021年)〕

児玉神社が令和4年に遷座百年を迎えるにあたり、記念行事や社殿の修復、境内の整備、児玉源太郎の功績紹介などに取り組む奉賛会(山下武右会長)を源太郎の命日7月24日設立、活動を始めました。顕彰会も全面的に支援、事業予算五千万円を目標に資金集めに奔走しています。修復整備工事は令和4年3月10日の例祭で起工、同7月24日の「藤園忌」命日祭で竣工予定。10月23日に遷座百年奉祝祭典を開催する予定です。周南文化協会に事務局を置き、



製作したDVD「児玉源太郎・未来を築く」(全3巻)



会報「藤園」を6号まで刊行  
ニュースレター「本丁通信」は9号まで刊行

同協会の大きな支援の下、この6年着実に成果を上げてきました。岩手県奥州市には市立の後藤新平記念館があり、札幌には新渡戸稲造の功績を称え、その精神を受け継ぐ札幌遠友夜学校記念館建設が動き出そうとしています。

先人たちの遺産の上に今日の繁栄を築いてきましたが、社会構造の変化、国際情勢の変化に十分対応しきれていません。先を読み解く力、現代社会を導く構想力、形にしてみせる実践力が問われます。未来を担う若者たちを育てること



周南市児玉町の児玉神社（黒神直大宮司）は今年12月で遷座百年を迎えます。遷座百年大祭と奉祝行事をはじめ、社殿の修復、耐震工事、境内の石垣、植栽整備工事、児玉源太郎の功績紹介などの記念事業を実施するにあたり、昨年7月24日に「児玉神社遷座百年奉賛会」（山下武右会長）を発足、活動を始めました。

事業予算は5千万円。役員会を9月15日、12月9日、3月10日と重ね、計画を具体化し、役員が中心となって事業所や個人への協力を働きかけています。児玉源太郎顕彰会も全面的に支援、ニュースレター「本丁通信」9号に掲載した上、10月22日に奉賛会への協力を呼びかけるパンフレットも全国の会員宛に同封しました。

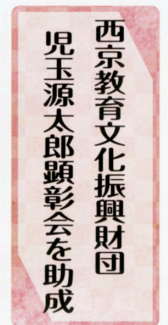
奉賛会会員の区分は奉賛金によって正会員（1万円以上）、篤志会員（10万円以上）、特別会員（50万円以上）、名誉会員（100万円以上）。全会員には奉納名簿

芳名記入、行事案内、記念品贈呈、篤志・特別・名誉会員には大祭案内、記念碑芳名掲示を。1万円未満も奉納金として奉納されます。

昨年から境内の石垣や植栽の整備工事にかかり、3月10日の例祭を終えて社殿の修復、耐震工事に着工しました。7月24日の「藤園忌」命日祭に竣工式を予定しています。

奉賛金は3月10日の着工段階で役員、企業をはじめ、顕彰会会員からも相次いで寄せられ、すでに3千万円を超えています。引き続きご支援、ご協力をお願いします。10月23日予定されている遷座百年祭を盛大にお祝いしたいと思います。

奉賛会への協力を呼びかけるパンフレット



周南市の西京教育文化振興財団（理事長・平岡英雄西京銀行頭取）は2月15日、第32回助成金交付先として児玉源太郎顕彰会など15団体を発表しました。同財団は西京銀行創立60周年記念事業として平成2年（1990年）に設立、山口県内の教育、文化、芸術、スポーツの振興など顕著な功績があった団体などに助成しています。

顕彰会は平成28年発足以来、恒例の「藤園忌」俳句や茶会、源太郎の生涯を描いたDVD「児玉源太郎・未来を築く」製作など積極的な活動を展開しています。顕彰会では助成金百万円を児玉神社遷座百年奉賛会による、社殿改修などの記念事業に充てることにしています。



# 新たな時代へ

## 徳山下松港開港百年 児玉神社遷座百年



徳山港とコンビナート企業、市街地（太華山山頂より）

大正11年（1922年）、徳山港の開港とともに、児玉源太郎がご祭神とした児玉神社の遷座式が行われました。今年は丁度百年の節目にあたります。戦後の昭和23年（1948年）に下松港が編入、徳山下松港として沿岸の企業とともに発展してきました。光港も同

41年（1966年）編入、拡大されました。

百年の節目にこの町の歴史を振り返ってみたいと思います。

### 徳山下松港と産業の歴史

陸軍の要職にあった児玉源太郎は、明治37年（1904年）徳山海軍煉炭製造所が徳山町（周南市）に設置される折、海軍に働きかけて実現に一役買ったと言われます。

煉炭製造所は大正10年、海軍燃料廠に改称、原油から重油、航空機用揮発油を精製しました。

大正7年（1918年）に日本曹達工業（徳山曹達からトクヤマへ）が徳山



門司税関徳山支署前庭に昭和2年建立された開港記念の石碑

町に設立、隣の下松町には日本汽船笠戸造船所が設立、同造船所は大正10年に買収されて日立製作所笠戸工場。昭和5年（1930年）には日本石油（ENEOS）下松製油所、同10年富田町に東洋曹達工業（東ソー）、下松町に東洋鋼飯下松工場が操業、同15年には光海軍工廠が設置されました。

同20年徳山海軍燃料廠、光海軍工廠空襲。戦後、同21年に光海軍工廠跡地に武田薬品工業光工場、同30年八幡製鉄（日本製鉄）光製鉄所、同32年徳山海軍燃料廠跡地に出光興産が初の製油所として徳山製油所を操業、これを機に石油化学コンビナートが形成されました。翌年南陽町に日本鉄板（日新製鋼から日鉄ステンレスへ）南陽工場が開設、光から下松、徳山、新南陽にかけて海沿いの一大工業

地帯が広がりました。徳山と新南陽両市は平成15年（2003年）合併、周南市となりました。児玉源太郎のふるさと、美しい徳山湾が天然の良港であったことが明治期の徳山海軍煉炭製造所進出につながり、さらに大正期の徳山開港に結びついていきました。今日の発展の土台になったとも言えます。

開港当時の急を要した動きを徳山市史は次のように伝えています。大正11年2月10日、徳山港は特別輸出入港として開港許可、これを受けて徳山町は門司税関徳山支



徳山下松港が開港から100周年を迎えた2月10日に除幕された記念碑



開港100周年を告知する周南市広報や各新聞

署の建築に関して建築費と建築用地寄付について、徳山開港株式会社（丸山助二郎代表取締役社長）の助力を得て実現しました。同社はまず埋め立て工事に着手、将来は本土と九州を結ぶ中継港にして航路開発、さらに港湾を整備して海陸運送業、倉庫業、土地住宅の賃貸売買などの事業も計画、壮大な構想を描きました。

同年12月、町は活況を呈します。12月14日には、開港会社によって築港地鎮祭と起工式が行われ、つづいて15日には早朝から児玉神社の遷座式が行われた。その式が終わって徳山協賛会主催の開港祝賀会、夜は来賓230余名を魚喜

樓に招待し、さらに16日から20日までの5日間は都濃郡物産共進会を催し、蚕糸・蚕繭共進会、蚕糸品評会、招魂祭、撃剣大会、書画骨董展示会、軍艦の参観、飛行機の陳列、郡立高等女学校10周年祝賀式など、多彩な行事が計画されていたので、町からも4600余円を支出して協賛会の経費を補助した。

### 児玉神社の歴史

周南市児玉町の児玉神社（黒神直大宮司）は、地元有志によって児玉邸跡に創建され、大正11年12月15日の徳山開港記念式当日に遷座祭が斎行されました。

遷座祭の模様を当時の防長新聞は次のように伝えています。

15日未明から各員総出にて社殿の装飾をなし、午前8時、祭主以下神職参列、一同拝殿内の定め席に就き、修祓の儀を行い、祭主・神職は御霊代を奉迎した。御霊代は故児玉源太郎將軍の邸に安置し、その遷御の際には、在郷軍人および各員が定め場所に着いて奏樂があり、御霊代を内陣に安置し、終わって祭主黒神神職の式辞があ

った。次に児玉伯爵の代理国雄氏（鉄道省参事・毛利子爵・橋本知事・岡村郡長らが玉串を捧げ、拝礼をして式を終わり、10時半閉典に撮影された。

遷座祭の翌年、内務大臣により創建が認可されました。大正14年、源太郎の偉業を末永く称える記念樹として台湾五葉松の幼木が境内に植えられました。昭和37年に都市計画で街路が改修されましたが、現在も4本が大きく育っています。

昭和8年に県社に列せられました。昭和20年空襲で焼失、戦後に再建されました。境内には、児玉



後藤新平揮毫の石碑。児玉源太郎13回忌に旧宅跡に建立

が台湾総督の時に民政長官であった後藤新平の参拝記念碑や後藤が揮毫した「徳足以懷遠」の碑などもあります。例祭は毎年、日露戦争で日本軍が奉天（現在の瀋陽）に入城した日にちなむ旧陸軍記念日に開催されています。



遷座100年を迎える児玉神社

児玉源太郎顕彰会では、源太郎の命日7月24日に「藤園忌」行事として、命日祭を催しています。

戦後77年。再建された児玉神社も社殿、境内が老朽化し、遷座百年を控えて昨年7月「児玉神社遷座百年奉賛会」（山下武右会長）を設立、改修を中心とした記念行事を進めています。

# 新刊紹介

## 東京の地下鉄物語

### 「地中の星」

門井慶喜 著



東京地下鉄の物語「地中の星」

東京の地下鉄を作った男の物語。この長編小説の主人公は「地下鉄の父」と呼ばれた早川徳次。明治14年山梨県に生まれ、遊学したロンドンで地下鉄に出会ってから、日本に地下鉄を、と奔走。技術、資金といろんな面で苦勞を重ね、昭和2年（1927年）浅草―上野間をついに開通させました。

早川は東京地下鉄道株式会社を作って専務取締役に就任。実際の仕事は大倉土木が請け負いますが、工事に携わった男たちの姿を実に生き生きと描いています。現場総監督の道賀竹五郎はトンネル掘りのエキスパートを集め、掘削担当の奈良山勝治はとんでもない妙手

を考え、重要な役割を担う覆工担当の本木嗣八は清水トンネルを掘った実績があり、事故で視力をほとんど失っているものの地面に足が触れた感覚で掘った深さを捉えます。さながら工事現場に居合わすほどの臨場感にあふれています。

地下鉄は浅草から神田、新橋と延伸。東京高速鉄道株式会社常務取締役の五島慶太（東京横浜電鉄社長）は、昭和10年（1935年）からわずか3年余りで渋谷から新橋に地下鉄を通し、早川の地下鉄とつなげようとします。曲折を経て地下鉄は連結、やがて市電と同じく公共の経営によるべきだと同16年、両社は統合、帝都高速度交通営団に。営団地下鉄は戦後も残り、同29年東京で2番目の丸ノ内線池袋―御茶ノ水間開通、最初の地下鉄は銀座線と命名されました。

平成16年、営団地下鉄は民営化され、現在は銀座線、丸ノ内線、日比谷線、東西線、千代田線、有楽町線、半蔵門線、南北線、副都心線の9線195キロを運営する世界有数の地下鉄会社です。

直木賞作家の著者は、時代を切り拓く人々を巧みに描きます。

2021年8月25日初版

新潮社 1800円（税別）

## 『歴史街道』特集 満洲航空立役者 児玉常雄



特集「満洲国の光と影」を組んだ月刊誌『歴史街道』

時代を見抜く座標軸を。月刊誌『歴史街道』3月号は、満洲国建国90周年で特集「満洲国の光と影―日本人がめざしたものを組みました。」

満洲国は昭和7年（1932年）3月に建国。「王道楽土」「五族協和」をスローガンに人々は夢を描き、理想を追い求めました。世界に航空網を広げようとした満洲航空、映画によって文化を根付かせようとした満洲映画協会などいろいろな思想が絡みながら時代は動きました。

建国から半年後、航空史上、類例をみない満洲航空設立。その立役者が児玉源太郎の四男、常雄。彼は開成中学から陸軍幼年学校、陸軍士官学校を経て将校になる道歩んでいましたが、機械や鉄道に興味があつて工兵科へ。陸軍入りしたあとも東京帝国大学機械工

学科で学んでいます。陸軍省軍務局航空課から通信省航空局に出向、技術課長として満洲航空創設に関わり、人材育成にも尽力、日本航空輸送の設立も主導、満洲航空は中近東から欧州までの一空のシルクロード構想」まで描いています。

戦後、満洲航空のパイロットや機関士は民間の航空会社で活躍、中小の航空会社はやがて全日空、日本航空に吸収されていきます。児玉常雄は後に「民間航空の育ての親」と呼ばれました。

2022年2月6日発行

PHP研究所 790円（税込）

## 計報 森谷京子さん逝去 多大な貢献に感謝

兼崎地橙孫顕彰会副会長の森谷京子さんが昨年10月29日、逝去されました。享年73。児玉源太郎顕彰会発足以来、総会や「藤園己」行事などの運営に積極的に関わってくださいました。多大な貢献に感謝するとともに心からご冥福をお祈りします。

森谷さんは大正、昭和に活躍した周南市出身の俳人・兼崎地橙孫を顕彰する同会を中心的存在。周南文化協会の詩吟や書道の分野でも活躍されました。



児玉源太郎顕彰会にはいろんな声が届きます。児玉神社遷座百年を控えて記念行事を行うために昨年7月奉賛会が発足しました。趣旨に賛同された人たちが顕彰会に來られたり、奉賛金を持参されたり、顕彰会の存在の大きさを改めて感じています。

岩手めんこいテレビ

特別番組で児玉源太郎紹介

岩手県奥州市の後藤新平顕彰会副会長の高橋力さんから新年のご挨拶とともに「フジテレビ系列岩手めんこいテレビで12月31日『後藤新平がない日本』が放映されました。徳山の児玉神社、広島の似島など児玉源太郎の紹介も沢山ありました。全国放送に期待！」と嬉しいお言葉がありました。

奥州市文化会館の主催で市民劇「新平さんの大風呂敷―後藤新平物語―」を上演、稽古の真っ最中。高橋さんは最晩年（ボーイスカウト総長）の新平役を演じます。今回の奥州市民劇は郷土の先人顕彰第4弾。3月12日、13日に予定さ

れていた公演は、コロナ禍のため来年2月11日、12日に延期されました。

岩手めんこいテレビ制作の『後藤新平がない日本』は反響が大



児玉源太郎生誕の地を取材する岩手めんこいテレビスタッフ



高橋さんからの便りと奥州市民劇「新平さんの大風呂敷」チラシ

きく、当初の60分から90分に拡大されてBSフジで3月26日（土）午後6時から7時半まで全国放送されました。

児玉源太郎を学ぶ

磯部 民子 (下松市在住)

昨年春から周南文化協会事務局に勤務して、児玉源太郎の存在を再認識しました。文化協会内に児玉源太郎顕彰会事務局があり、その機会に恵まれました。

恥ずかしながら知らないことが多く、文化協会の西崎博史会長（児玉源太郎顕彰会事務局長）がある日、児玉神社や生誕の地などを案内してくださいました。神聖な気持ちに包まれたことを不思議に思います。事務所には顕彰会の会報「藤園」、ニュースレター「本丁通信」、源太郎の生涯を描いたDVD「児玉源太郎・未来を築く」、書籍などが備えてあります。私も一会員として少しずつ郷土の歴史を学んでいきたいと思えます。

台湾にはこれまで2回ほど旅しました。次の時には児玉源太郎と台湾の歴史を感じながら旅してみたいなと、その日を心待ちにしています。

令和4年度会員募集スタート 4月から

児玉源太郎顕彰会は令和4年度で7年目に入ります。総会を5月28日（土）、「藤園忌俳句」を6月と7月で募集、「藤園忌茶会」を7月23日（土）、「藤園忌」命日祭と墓前供養を7月24日（日）に開催する予定です。「藤園忌」行事も6回目を数えます。

今年には児玉神社遷座百年、徳山下松港開港百年の節目。会員の皆さまとともに記念行事を盛り上げたいと思えます。会員としてご支援、ご協力をどうぞよろしくお願ひします。

個人会員の会費は2千円ですが、個人としても1万円以上の賛助会員は大歓迎です。会員募集チラシと振込用紙（郵便局専用）を同封しました。銀行振込の場合はお名前と連絡先を事務局までお知らせください。

# トピックス

## 児玉源太郎登場

### NHK大河「青天を衝け」

日本資本主義の父、渋沢栄一の生涯を描いたNHK大河ドラマ「青天を衝け」に児玉源太郎が登場しました。日露戦争時の資金調達の間で昨年12月上旬放送されました。

ロシアの南下政策へ対抗して独立国としての日本を守るために日露戦争は避けられないこと、そのためには莫大な資金を要することを唱え、渋沢栄一の協力を取り付けました。

幕末に武蔵国血洗島村(現・埼玉県深谷市)の名字帯刀を許された名士階級の家に生まれた栄一は一橋家家臣になり、パリ万博使節団の一員として西欧を体験、帰国後に「官」から「民」に転身、明治の近代化を推し進めました。

わずかな時間とはいえ、重要な局面での児玉源太郎の登場は意義深いものでした。児玉源太郎顕彰会の山下武右会長がこの場面をNHKに進言、効果があったのかもしれないと。児玉源太郎の人間像を通して国家とは、理想の社会とは、人を愛するとは、などスケールのある大河ドラマが放送されることを期待します。

## 特別文化功労賞に

### 俳人・宇多喜代子さん

周南文化協会(西崎博史会長)は、周南市出身の俳人・宇多喜代子さんが昨年11月3日の文化の日記念式典で特別文化功労賞を授与しました。同賞は画家宮崎進、詩人まごみちお兩名に次いで3人目。宇多さんはわが国を代表する俳人として日本芸術院会員、文化功労者に選ばれています。児玉源太郎顕彰会の「藤園忌俳句」選者としてもご尽力くださり、有り難く思います。

## 「路」台湾エクスプレス」白台共同制作 NHKで再び



ドラマ化された吉田修一の小説「路(ルウ)」

台湾新幹線プロジェクトの軌跡を、日本人と台湾人の心の絆を織り込んで描いた吉田修一の小説「路(ルウ)」。NHKと台湾の公共放送局PTSの共同制作でドラマ化、2020年5月に全3話構成で放送、感動を呼びました。

反響の大きさに特別編集版としてNHKBSで1月30日から毎週日曜日4回にわたり放送されました。

た。脚本・田淵久美子、音楽・清塚信也。出演は日本商社員を演じる波瑠と台湾人青年の炎亞綸(アロン)ほか。

台湾新幹線は台北市と高雄市を結ぶ高速鉄道。2007年1月5

## 編集室より

### 蓬莱島余談

川上 浩史

先日書店で『蓬莱島余談』という文庫を見かけ、即購入。「阿呆列車」で名高い内田百閒のエッセイを再編集したものです。国内の船旅が中心ですが、タイトルのとおり、戦前の台湾への船旅とサトウキビ畑の情景、そしてもちろん鉄道の話が楽しめます。

かつての台湾で暮らす人々の姿を感じるとともに、自分も時と空間を超えて旅する感覚を覚えました。こんな文章を書いてみたいものです。

(新南陽郷土史会事務局長)

## 遷座百年にむけて

松本久美子

周南市に残る児玉源太郎ゆかりの地を案内した地元ケーブルテレビ制作の番組を美術博物館のYouTubeでご覧いただけることを、前号の「本丁通信」で紹介しました。そのお蔭か、今年初めから多くの方々をご覧になり、再生回数が一気に増えて驚いています。その番組の中でも紹介している児玉

日開業。345キロを最高速度300キロ、わずか1時間半で結びます。コロナ禍で中止した2年前の台湾の旅は台湾高鉄を利用して台北から高雄まで足を延ばす予定でした。再度挑戦します。

神社は100年前の大正11年4月に建てられ、12月15日に遷座祭が行われています。遷座百年の記念事業で現在、神社を改修中。その一環として参道に児玉源太郎の生涯をイラスト入りでわかりやすく掲示する計画が私に関わらせていただいています。黒神直大宮司は、隣の児玉公園で遊んでいる親子も見てもらえれば、ということでも、私も知恵をしばっています。

(周南市美術博物館学芸課長)

## 先人の苦勞に思いを馳せる

西崎 博史

源太郎の居宅跡に建立された周南市児玉町の児玉神社に毎年初詣、おみくじを引いて運勢を占うのが習わしとなりました。昨年は「辛抱せよ。良き時が来る」、今年は「世の為人の為に尽くせ。幸福までも上る」。なぜか力をいただきました。神社の遷座百年奉賛会に貢献できるのも顕彰会という「器」があればこそ、です。

ある会合で先日、徳山港開港と児玉神社遷座百年のお話をする機会を得ました。先人たちの苦勞に思いを馳せ、未来の夢を描きます。

(児玉源太郎顕彰会事務局長)